

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆外貨預金の伸び、過去最大4兆円 家計・企業で進む「円からの資産分散」

・個人や企業が外貨預金を急速に増やしている。4～6月期の平均残高は前年同期から約4兆円増え、過去最大の伸びを記録。円の先安観から保有資産を分散する動きが広がり、外国為替市場で新たな円安圧力になる循環が起きている。国内の銀行に預けられた外貨預金の残高は4～6月期におよそ26兆1000億円と前年同期より18%増えた。

◆世界の特許割合「日本25→8%」、知財競争で影薄く AI分野伸び悩み

・知的財産の国際競争力を映す特許出願数で日本の存在感が薄い。特許庁の特許行政年次報告書によると、世界に占める日本の割合はこの20年ほどで25%から8%に縮んだ。米中が技術開発で先行する生成AI(人工知能)といった分野の伸び悩みが響く。世界の特許出願件数は2024年に372万件、05年の170万件から19年間で2.2倍に。

◆貿易赤字3カ月連続、7月6345億円 原油など輸入コスト上昇響く

・財務省が発表した7月の貿易統計(速報)によると、輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支は6345億円の赤字。赤字は3カ月連続。半導体電子部品の輸出が堅調だったものの、原油などの輸入コストの上昇が響いた。輸出額は1兆5117億円と前年同月比で23.2%増えた。11カ月連続のプラスで、単月で過去最大となった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆エチレンの7月稼働率、69.9%に小幅回復 在庫水準は持ち直し

・石油化学工業協会は7月のエチレン生産設備の稼働率が69.9%(速報ベース)だったと発表。過去最低だった6月からは小幅に改善したが、好不況の目安とされる9割を下回る状態が48カ月連続で続いている。中東情勢の混乱が長引き、依然、原料となるナフサ(粗製ガソリン)価格が大きく変動する状況が続く。

◆首都圏新築マンションの7月平均価格、最高の1.6億円 港区で大型物件

・不動産経済研究所が20日に発表した7月の首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)の新築マンションの平均価格は前年同月比64%高の1億6493万円だった。3年4カ月ぶりに過去最高を更新。都心で大規模物件の供給があったことが価格を押し上げた。これまでの首都圏の最高値は2023年3月の1億4360万円だった。

◆上半期の人手不足倒産、建設業が最多 7月の不足感も高水準で推移

・帝国データバンクが公表した「人手不足に対する企業の動向調査(2026年7月)」によると、正社員が不足していると回答した企業は51.3%となり、4年連続で5割を超えた。業種別では6業種で6割を超え、「建設」は前年同月比2.1ポイント減の66.0%だったものの、依然として高水準で推移。建設業では高齢化や引退を背景に人手不足の割合が高い。

《 注目商品 》

■東リ リーズナブルなタイルカーペットの柄物を大幅拡充

・リーズナブルな価格帯のタイルカーペット「GA-400シリーズ」に新柄・新色を追加。立体感のあるテクスチャーの柄物「GA-400A」のラインアップを大幅に拡充。無地タイプ(GA-400)、ストライプ柄(GA-400S)、モダンなランダムストライプ柄(GA-400RS)とあわせ計10柄63アイテム。



■シャープ、ドラム式洗濯機の水滴5割増 噴射口にペンギンの羽毛構造

・噴射する水滴の数を従来機より5割増やしたドラム式洗濯機の新商品を9月10日に発売すると発表。噴射口にペンギンの羽毛の構造を応用した技術を採用し、水滴を多く発生させることで洗浄力を高めた。微細な気泡と水滴を高速で噴射し繊維の奥の汚れを浮かせて洗い流す。



■アイリスオーヤマ、「感震ブレーカー(ブレーカー遮断タイプ)」

・アース付きコンセントに差し込むだけで使用できる「感震ブレーカー(ブレーカー遮断タイプ)」を発売。工事不要でアース付きコンセントに差し込むだけで使用できる。震度5強相当以上の揺れを感知すると、分電盤の主幹ブレーカーを遮断。

